

日本語能力試験N1 「合格体験記」

～机上の勉強を超えて：N1合格を目指すための日常的日本語学習～

中部学院大学 人間福祉学科4年生

孫 雲朗 (ソン ウンロウ)

日本語能力試験 N1 に合格するため、私はインターネットを活用して過去問をたくさん練習しました。特に、読解が難しく感じました。試験中、全ての文章をじっくり読む時間はないため、文章の中から迅速に正解を見つけ出す力が重要です。そのため、タイマーを使い、時間を意識しながら繰り返し練習しました。特に、長い文章からキーワードや重要なポイントを素早く掴む訓練は効果的でした。初めの頃は、時間内にすべて解き終えることが難しかったのですが、練習を重ねるごとに少しずつスピードと精度を向上することができました。

それでも、私にとって大量の時間を問題集や過去問に費やすことより、日常生活の中で、実際に日本語を使って知識を得る方が効果的でした。例えば、語彙の暗記には多くの時間を割きましたが、次第に単調で退屈を感じるようになりました。覚えたつもりでも、実際に使ってみないとすぐに忘れてしまうことが多かったからです。机に向かって暗記するだけでは、記憶が表面的で長続きしないと感じました。

そのため、私はアルバイトや日本人との交流を通じて日本語を使う機会を増やしました。実際に日本語を話す環境に身を置くことで、単語や表現を自然な形で学ぶことができ、より深く定着しました。例えば、仕事の中で上司や同僚とコミュニケーションを取る際に、新しい単語や表現を使うことで、それに関連するイメージが頭に浮かび、覚えやすくなります。こうした実践的な学習は、単純な語彙の暗記よりも、私にとっては、はるかに効果的でした。実際に使うことで、日本語が生きた知識として自分の中に定着し、試験にも自然と応用できるようになりました。

また、リスニングや会話のスキルも、日常生活の中で強化されました。試験対策としてリスニング問題を解くことはもちろん重要ですが、日本語を日常的に使う環境にすることで、自然と耳が慣れ、リスニング問題にも対応しやすくなりました。アルバイトや友達との会話を通じて、スピードの速い会話や、日常的な日本語表現にも対応できるようになり、リスニングの実力が向上しました。

もちろん、試験対策として問題集や過去問を繰り返し解くことは不可欠です。しかし、単に机に向かうだけではなく、実際に日本語を使う機会を増やすことで、より実践的で生きた知識が身につきます。日常生活の中で日本語を活用することは、N1合格への近道だったと感じています。N1を目指す皆さんもぜひ、過去問の練習に加え、日常生活で日本語を使う環境を大切にしてください。実践を通じて得た知識は試験にも役立ちますし、自然と定着していきます。焦らず、自分のペースで学び続けてください。